

フィレモンへの手紙

フィレモンへの手紙は、拘束されたパウロがフィレモンに、信仰の家族の中でオネシモを愛する兄弟として受け入れるよう願う個人的な訴えです。



解釈にもとづく再構成。正確な受け渡しは再構成です。コロサイの信徒への手紙と同じ便だったとはせず、オネシモのそれ以前の経緯も補ってはいません。

年代・確度：推定される

紀元60～62年頃

ブラウンによるローマの年代幅は紀元61～63年です。エフェソとカイサリアも提案されており、手紙は収監都市を名指ししません。

場所・確度：推定される

ここに示す伝統的な拘禁書簡の年表はローマ、西暦60～62年ごろであり、重なる名前と使者のつながりによってコロサイの信徒への手紙と結びつけられることが多いです。

ブラウンによるローマの年代幅は紀元61～63年です。エフェソとカイサリアも提案されており、手紙は収監都市を名指ししません。

前後の出来事

- ① 紀元59／60年頃 嵐と難船。276人全員が助かり、パウロは蛇にかまれるが無事で、マルタ島で癒やしを行う。
マルタ・本文で確かめられる
- ② 紀元60年頃 マルタ島からイタリアへ渡り、さらにアッピア街道でローマへ。兄弟たちがパウロを迎える。
マルタ→シラクサ→レギオン→プテオリ→アピイフォルム→トレス・タベルネ→ローマ・本文で確かめられる
- ③ 紀元60～62年頃 使徒言行録は、パウロがローマで自宅軟禁下に置かれたまま、妨げられることなく宣教する場面で終わる。この時期に獄中書簡を置く伝統的な見方は再構成であり、使徒言行録自身の主張ではない。
ローマ・本文で確かめられる
- ④ 紀元60～62年頃 フィレモンへの手紙は、書き手がオネシモをフィレモンのもとへ送り返そうとしていると述べる。コロサイの信徒への手紙との共通する人名は両書の関連を示唆するが、同じ発送、完了した旅程、監禁都市を確定しない。
・推定される
- ⑤ 紀元60～62年頃 エフェソの信徒への手紙は、キリストとの結びつきと、ユダヤ人と異邦人の一致を示す。パウロによる直接の著作、宛先、監禁場所はいずれも議論されている。
・推定される
- ⑥ 紀元60～62年頃 フィリビの信徒への手紙は、投獄が福音の前進につながったことを描き、キリストをたたえる賛歌を含む。監禁都市は議論されている。
・推定される

本文から確かめられること

本文で確かめられる

フィレモンへの手紙は、拘束されたパウロがフィレモンに、信仰の家族の中でオネシモを愛する兄弟として受け入れるよう願う個人的な訴えです。

手紙はフィレモン、アフィア、アルキボ、そして彼らの家の教会に宛てられ、その訴えを個人的であると同時に共同体的なものにします。

10分で紹介するための流れ

1. フィレモンへの手紙は、拘束されたパウロがフィレモンに、信仰の家族の中でオネシモを愛する兄弟として受け入れるよう願う個人的な訴えです。
2. 伝統的年表は、フィレモンへの手紙をパウロがローマに到着した後の拘禁中にコロサイの信徒への手紙とまとめ、使徒言行録後の牧会的再構成の前に置きます。
3. ここに示す伝統的な拘禁書簡の年表はローマ、西暦60～62年ごろであり、重なる名前と使者のつながりによってコロサイの信徒への手紙と結びつけられることが多いです。
4. フィレモンへの手紙と関連書簡の背景となる拘束を、ローマではなくエフェソまたはカイサリアに置く研究者もいます。

一次資料

ローマの信徒への手紙からフィレモンへの手紙まで、『聖書 聖書協会共同訳』©2018日本聖書協会。引用本文には、本プロジェクトのCC BY 4.0ライセンスは適用されません。引用と利用の条件については、日本聖書協会の案内をご確認ください。

使徒言行録7～28章、『聖書 聖書協会共同訳』©2018日本聖書協会。引用本文には、本プロジェクトのCC BY 4.0ライセンスは適用されません。引用と利用の条件については、日本聖書協会の案内をご確認ください。

資料

Raymond E. Brown, An Introduction to the New Testament (Doubleday, 1997). — 第21章 「フィレモンへの手紙」：「メッセージの全体的分析」

この箇所は、関連する研究上の見解を概観します。

Jerome Murphy-O'Connor, Paul: A Critical Life (Oxford University Press, 1996). — 第1章 「年代枠組み」：「パウロ書簡からの証拠」と「使徒言行録からの証拠」

この箇所は、ここでの結論を慎重に評価するための研究上の論点を示します。

聖書本文は含めず、参照箇所のみを記載しています。

<https://paulineletters.com/ja/explore/philemon>



考えうる別の読み方

フィレモンへの手紙と関連書簡の背景となる拘束を、ローマではなくエフェソまたはカイサリアに置く研究者もいます。

話し合いのための問い

なぜこの手紙は書かれたのですか。

確かなことは何で、どこで慎重な読み方が分かりますか。